

## 関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	河内平野北部の中上部更新統の分布の再検討		
研究者	三田村宗樹 (大阪公立大学大学院理学研究科)		
研究期間	2022年 5月 ~ 2023年 4月	報告日	2023年 6月 1日
研究目的:	<p>河内平野北部地域には、完新統が薄く覆う更新統からなる埋没した台地状の地域が存在する。すでに「関西地盤」「新関西地盤-大阪平野から大阪湾-」などでもその地域の沖積層分布や Ma12 層の分布状況が報告されている。しかし、Ma12 層より下位の地層の分布については、それほど詳しく検討が行われていない。本研究では、地盤データベースを用いて、上町台地とその周辺で標高毎のボーリングデータの岩相地点図 (レベルスライス) を作成し、地層分布や地質構造把握を再検討する。</p>		
研究内容と成果:	<p>本研究では河内平野北部地域 (大阪市城東区・鶴見区、守口市、門真市、東大阪市北部) を対象として、関西圏地盤情報データベースを用いて主要断面図をまず作成し、河内平野北部で実施された層序ボーリングである浜ボーリングの地質柱状図を基本として、周辺ボーリングデータにおける海成粘土層層準の同定と断面での海成粘土層の追跡を行ったあと、標高-20m~-40m レベルで 5m ないし 10m 間隔で存在するボーリングデータの岩相地点図 (レベルスライス) を作成し、基準となる地質断面との層序対比を行い、4 枚の各標高レベルでの地質平面図を作成した。</p> <p>その結果、標高-20m レベルでは、上町台地北部から現在の淀川河谷、旧大和川河谷にあたる地域では、沖積層が旧河谷を埋積するように分布する。これに対して、守口市~門真市にかけて、淀川の左岸から南東側に沖積層の薄い地域があり、この地域には標高-20m レベルでは Ma10 層から Ma12 層の層準の更新統が連続的に分布する。これらの更新統は、比較的穏やかな構造をなし、Ma10 層は北北東-南南西方向に連続的にその分布が認められる。特に Ma12 層は、河内平野北東部に幅広く分布している。Ma10 層と Ma12 層の間に存在する Ma11 層は、断片的にしか表現できない。標高-30m レベルでは、河内平野の沖積層の分布は認められなくなり、下位の Ma12 層以下の更新統が広く分布する。特に Ma10 層は、河内平野北部の中央で北北東-南南西方向に連続的にその分布が帯状に認められる。Ma12 層は、標高-30m レベルにおいて下位層を不整合で削り込む状況が確認でき、この部分では、Ma11 層の分布が途切れる状況が確認できた。</p> <p>今回、標高ごとのレベルスライスで Ma10 層以上の層準について、海成粘土層の追跡を行ったが、Ma9 層以下の層準については、解析した標高レベルにおいては、上町台地東部に主に分布し、河内平野中央部から東部に比べて地層傾斜が相対的に急になることから、地層追跡が十分に行えなかった。この点については、今後、慎重な検討が必要となる。</p>		
公開資料 (論文等):	2023-2024 年度に実施される予定の地質系学術会議で報告予定。		

※貸出期間終了後、研究利用報告書 (本様式) と研究成果 (論文等) を提出してください。  
 ※研究利用報告書は、KG-NET の HP で公開します。